

秩父鉱山産鉱物の埼玉県・天然記念物指定について

小林 まさ代

令和4年に株式会社ニッチツ秩父事業所より寄贈を受けた秩父鉱山産鉱物142点が、このたび埼玉県指定天然記念物「秩父鉱山産鉱物・岩石標本

附 関連資料一式」に指定されました（令和7年3月14日指定埼文指第589号）。「文化財保護法」によって示される天然記念物とは、「動物、植物及び地質鉱物で我が国にとって学術上価値の高いもの」のうち、重要なものとされています。本件は、以下の理由で指定されました。

- ・国内でも第一級の稀有な産状（結晶の質、大きさ等）を示す鉱物標本が多数含まれること。
- ・産出した鉱床や産出地点が記録された標本もあり、関係者の聞き取りメモや地質図等も残され、鉱床学・鉱物学上の研究試料としても重要。

もともと秩父鉱山は、鉱物関係者の間で優れた鉱物産地として有名でした。他鉱山では滅多に産出しない車骨鉱や毛鉱、セムセイ鉱といった希少な鉱物が数多く産出すること、外国産の鉱物にも劣らない結晶形の美しい大型の標本が採集できることなどからです。そのため、これまでにも当館には、研究者の方が採集したものや元鉱山関係者

の方からご寄贈いただいた標本など、多くの秩父鉱山産鉱物の所蔵がありました。

しかし、ニッチツが所蔵していた標本は鉱石採掘時に「これは」と思われるものだけを収集していることもあり、大きさ・質・希少性ともに群を抜いていました。また、採集時の様子を関係者から直接聞き取りできる標本もありました。まさに天然記念物指定にふさわしい、圧巻の標本群と言えそうです。

また最盛期には、鉱山町には2,000人を超える人々が暮らしており、秩父郡内には今でも秩父鉱山にゆかりのある方々が多く暮らしています。山の暮らしは厳しかったけれども豊かでもあったと、多くの人が証言を残しており（たとえば黒澤和義著『写真と証言でよみがえる秩父鉱山』同時代社）、秩父地域に経済的にも文化的にも大きな影響を与えていたと言えます。全国から人を呼び、県内最大の金属鉱山であった秩父鉱山の資料は、地質学的な面だけでなく埼玉県内の鉱業史（産業史）をたどる上でも重要な資料です。それも加味しての、埼玉天然記念物指定と言えるでしょう。

（こばやし まさよ・主任学芸員）

**写真、令和6年度特別展
「秩父鉱山の面影～ニッチツが
所蔵した希代の鉱物標本群～」**
(会期：令和7年3月8日～6月15日) 展示風景

本展示では、株式会社ニッチツから寄贈を受け、埼玉県天然記念物に指定を受けた142点のすべての標本を展示した（うち4点は常設展示、1点は写真展示）。写真は、鉱山を代表する自然金の標本。

